

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームおおむらさき	評価実施年月日	平成 19 年 10 月 1 日
評価実施構成員氏名	渡部百合子 根井真奈美 能登 和子	宮嶋裕美子 岡田 奈菜 岡本 真子	安部真樹子 中島 智晶 榊原めぐみ
記録者氏名	渡部 百合子	記録年月日	平成 19 年 10 月 1 日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>独自の理念つくっている。</p>		
<p>2 理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者と職員は理念を共有し、理念から外れることのないよう取り組んでいる。ホーム内の目に入りやすい場所に掲示し、出勤時は理念を確認している。</p>		<p>理念の中の「地域とともに」というところに今後力を入れていきたい。</p>
<p>3 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>入居前にご家族に理念を伝えている。またホーム内の見える場所に掲示している。地域に向けてのお便りを発行し、グループホームの役割や理念について伝えている。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近所のスーパーへご利用者とともに買い物に出かけ、顔見知りになるように努めている。近所の方や地域のボランティアの方を受け入れ、交流を図っている。</p>		<p>町内会の方とも協議し、さらに近所の方が気軽に立ち寄ってもらえるように取り組んでいきたい。</p>
<p>5 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一般の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>併設の老健と町内会合同の夏祭りを開催している。また地域の一般の方参加の敬老会、ボランティアの方とのもちつき、秋祭りやひな祭りコンサート、民謡コンサート、小中学生の合唱コンクール、地域の喫茶店などに出かけている。</p>		<p>今後さらに地域の行事に参加していきたい。</p>
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>栗山町のサービス事業所職員、地元の高校生、南空知の高校の家庭科教員などに対し、認知症の理解と対応について研修を行っている。地域の高齢者に対しての取り組みは行っていない。</p>		<p>地域の高齢者に対しても認知症の講演等をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	不十分ではあるが、昨年の自己評価を生かして、地域とのつながりや金銭の使用について少しずつ改善に取り組んでいる。		評価後に職員全員で向上に向けた具体的な取り組みを検討していきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	昨年度は1回の開催のみで、そこでの話し合いが具体的なサービス向上にまでは現在のところ結びついていない。		今後は定期的開催し、意見交換し、サービスの向上につなげていきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	月1回開催される栗山町のケア会議に参加しているが、栗山町の担当者と直接意見交換等により、ホームの質の向上のための取り組みはできていない。		ホーム便りを栗山町の担当者にも回覧したり(ご家族の同意のもと)、ホームの日頃の過ごし方を直接見てもらう機会を作ったりして、意見交換していきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	認知症介護管理者研修やその他の研修で権利擁護事業について学んでいる。必要な方がいたら支援していきたい。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止について学ぶ機会を設け、虐待のサインを見逃さないようにしている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の相談の際に十分な説明を行い、疑問や不安を残さないようにしている。退居についても、ご家族と数回にわたる話し合いを持ち、納得してもらえるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者とゆったり関わる時間を持ち、意見や不満を表出できるよう支援している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご家族の面会時、家族会に普段の様子を伝えている。健康状態は体調不良時はその都度電話に連絡、変化のないことは病院受診付添いで来所した時に伝えている。職員の異動や退職については、面会時や、ホームだよりにて報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の集いや面会に来所された時など、ご家族が話しやすい雰囲気を作っている。苦情や不満については特に聞かれていない。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回の職員カンファレンスや、年2回の個人面談で意見や希望を聴いて反映している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	外出行事の際は、日勤職員を多くし、併設施設の職員に運転手を頼んでいる。夜間の行事の際は、遅番職員を増やすなど、柔軟に対応している。また併設施設のリハビリスタッフに、ご利用者の身体機能評価やリハビリについて助言してもらうこともある。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限に抑えている。離職は、結婚や定年などに限られている。職員が代わる場合は、いきなりではなく、少しずつ関わる時間を増やしていくように対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	併設施設との合同の内部研修や、外部研修に参加する機会を作っている。また日々の業務の中でもケアについてアドバイスしている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北海道グループホーム協議会空知ブロックの管理者連絡会や計画作成担当者研修会などに可能な限り参加している。		他のグループホームに研修に行ったり、交流できるようにしていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	年2回の定期面談や、都度の面談で話を聞くようにしている。		職場を離れての親睦の機会を設けていきたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	年2回の面談時に、勤務状況や勤務態度、実績について評価し、職員が前向きに勤務できるよう取り組んでいる。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。			
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	買い物、食事の準備や、後片付け、掃除や洗濯物たたみ、ごみ捨てなど、ご利用者と一緒に家事を行っている。日常生活の中でもコミュニケーションを多くし、昔の話や生活の知恵などを教えてもらっている。またご利用者の優しい言葉に気持ちが癒されることが度々ある。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ほとんどの行事についてご家族に案内し、外出行事も一緒に参加されるよう依頼している。各種行事のご家族の参加率は非常に高く、ご本人と楽しい時間を共有している。行事の時に、ご家族が率先して食事作りに加わってくれたこともある。		ご家族をお客様扱いせず、ご本人を支える大切な仲間としてとらえ、準備段階からの参加も検討していきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	「母の日の集い」や個別の誕生会には出席してもらえるように案内し、あらためてお互いの存在の大切さを実感してもらえ取り組みも行っている。 ご家族がなかなか来所されないご利用者には、関係が希薄にならないよう、ケアプランを立案している。		面会頻度の少ないご家族には、短時間でもいいので来所してもらえるように働きかけていきたい。
30 馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅が近所にある方は、毎月夫の月命日に帰れるように支援している。 自宅が遠い方に対しては、支援できていない。 理美容室は馴染みの店に継続していけるよう支援している。		馴染みの関係が途切れないように、入居前にお世話になった近所の方に時々会えるようにしたり、暮らしていた家に帰れるような機会を作っていきたい。また外出の際に、住み慣れた家や、周りの環境を感じることができるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しがちなご利用者に対しては、職員が間に入り良好な関係を保てるように配慮している。同じ活動を皆で行ったり、談笑したりすることで仲間意識を持っている。もめごとがあった場合は職員が間に入り、大事にならないように気をつけている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後も、入院中の病院にお見舞いに行ったり、施設に会いに行ったりするなど、つきあいを大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望や意向を把握している。意思表示が乏しい方に対してはご利用者本位を第一としている。センター方式でアセスメントをし、ケアプランを立案している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族より入居前、面会時等に生活歴や利用サービスの情報を収集している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	できることとできないこと、わかることとわからないこと、普段の一日の過ごし方や、心身の状態を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご利用者、ご家族の希望や意見を聞いて、職員間で確認し介護計画を作成している。さらに月1回カンファレンスを行い、プランについて評価したり、追加したり、変更したりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	評価日以前の身体・精神状況の変化に応じて、現状に即した新たな計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別に記録し、情報を共有し、見直しを行っている。また介護計画の実施状況については細かく記録している。		さらに、ご本人の言動などを詳細に記録し、職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的なボランティアや、演芸ボランティアなど地域の方の支援を受けている。		さらに民生委員や他の地域の人々と連携を深めていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要な方に介護保険のサービスを利用して、福祉用具の購入を支援したことがある。元々利用していた通所サービス(同一建物の階下)で過ごす時間を作ったりしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ご本人の意向や必要性のある方はこれまでにないため、地域包括支援センターと協働の支援は行っていない。		必要に応じて地域包括支援センターと協働していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ご家族の意向によりかかりつけ医を決めている。受診の際には、普段の脈拍や血圧などの一般状態や行動状況などの情報をご家族に提供している。ご家族が付き添いできない場合は職員が付き添っている。またご家族が付き添う場合も、必要に応じてリフト車での送迎も行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい精神科医師に職員が相談したり、ご利用者が受診して治療を受けられるよう支援している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師であり、毎日ご利用者の状態を確認し、必要な処置をおこなったり、介護職員に助言したりしている。また夜間帯に特変があった際は、併設老健の看護職に相談し、対応してもらおう体制がある。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先の病院に電話したり、直接出向いたりして情報交換し、早期に退院できるように支援している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化し、こちらでの対応が困難になった場合は、ご家族と何度も話し合いをしたり、主治医から病状説明を一緒に受けたりして、今後の方針を相談し、全員で共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	病状の不安定な方に対して、職員間でも情報を共有し、今後起こりうる変化に対する対応を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>例えば通所を利用していた方の場合は、通所に来た際にホームで過ごす時間を作ったり、併設施設の方の場合はホームに数回来るなどして、徐々に雰囲気慣れてもらうように支援している。</p> <p>関係者間での話し合いを十分行い、情報交換している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりを大切な家族と考え、尊厳を保てるような言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いは十分注意している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご利用者の希望については、ゆったりとした時間の中で表出できるように支援している。説明はご本人が理解できるような言葉を使っている。自分自身で選択、決定できるように支援している。</p>		<p>その日に着る洋服を自分で選んでもらったり、食事やおやつメニューも選択できるように支援していきたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>散歩に行きたいという希望があれば、その都度対応しているが、ご利用者からの希望の表出は少ない。</p>		<p>今日の過ごし方について、ご利用者からの希望をもっと聞くようにしたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみはきちんと整えている。服装はその方に似合うものを選択し、外出時は特におしゃれな装いができるように支援している。理美容室は、馴染みのところに行けるように支援している。髪型はご本人の希望を具体的に伝えている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>それぞれの能力に応じ、包丁を使って材料の下ごしらえをしたり、盛り付けしたり、後片付けを職員と一緒にやっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	糖尿病で甘いものを好む方にはノンシュガーを使用している。おやつなどに関しては、職員が選んで購入してしまっている。煙草を吸う方が入居していた時は喫煙できるように見守りしていた。		飲み物もこちらで決めてしまっていることが多いため、ご本人の今飲みたいものを確認していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。排泄は基本的にトイレで行っている。尿意を訴えない方でもトイレへ誘導してオムツの使用量を減らすよう努めているが、実際に使用量は変化していない。		さらにその方の排泄のパターンを知り、トイレ誘導時間を検討し、失禁を減らし、おむつ使用量も少なくしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	月曜日から日曜日まで毎日午後から入浴している。夜間に入りたい希望がないため夜間は行っていない。ほぼ一日おきに入浴している。		今後夜間入浴を希望する方がいた場合は対応していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	午睡の習慣のある方や、体調に応じて休息時間をもうけている。また良眠できるように日中活動的に過ごせるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの好み、生活歴、生きがいを把握している。家事を担うことで役割意識を持ってもらったり、外出が好きな方には散歩や戸外に出る機会を多くしたり、お話好きな方には他者との関わりを持てるように支援している。		散歩や外出などでホームの外に出る機会を、希望のある方全員に毎日行っていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人がお金を使う機会は少ないが、病院での支払い、外出先での飲食代等の支払いを行っている。		今後はさらにご利用者が自分の買いたい物を買って、自分で支払う機会を多くしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物などで戸外に出かける機会をもうけているが、毎日全員が戸外に出かけではない。		毎日全員が短時間でも外の空気に触れるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	回転寿司、レストラン、さくらんぼ狩り、コンサート、公園など、毎月ドライブを兼ねた外出をしている。外出の際はご家族にも参加を呼びかけ、花見やさくらんぼ狩りなどは毎年一緒に楽しんでいる。		ご利用者の希望をきいて、新たな場所へも出かけていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話を掛けたい希望があれば対応している。クリスマスカードや年賀状を毎年ご家族に送っている。		年賀状だけではなく、暑中見舞いや、お便りを送る機会を増やしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や友人、知人が来所した時は、お茶を出したり、日頃の様子を伝えたり、ゆったりしていつてもらえるよう雰囲気作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の防止について熟知しており、拘束しないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室の鍵は終日掛けていない。外玄関は18時に施錠し、8時に開錠している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>昼夜ともにご利用者の所在確認や様子を把握している。職員間で連携し、見守りを怠らないようにしている。</p>		<p>骨折事故の発生があったため、事故を予測し、最予防する取り組みを強化していきたい。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>包丁やはさみなどは職員の見守りの元で使用している。薬や漂白剤など危険度の高いものは、鍵の掛かる引き出しや手の届かない場所に保管している。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故防止に努めているが、夜勤者一人の時に転倒骨折事故が起きている。</p>		<p>今後はさらに事故を防止できるように、予測をして未然に防げるように対応していきたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>全員が救急救命士により救命講習を受講している。また急変時の対応マニュアルを作成している。</p>		<p>年に1回は救急講習を受講するようしていきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>非難訓練を年2回行っている。 地域の人々に協力を得られるような働きかけはしていない。</p>		<p>地域の人々にも協力してもらえるよう働きかけていきたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居の際、また入院して戻った際などに、ご家族にリスクと対応策について説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	週2回以上、血圧・体温・脈拍を測定している。安定していない場合は毎日測定し、体調の把握に努めている。また常に普段と違う様子がないか観察し、異常があれば、管理者や併設老健の医師、看護職員に連絡し指示をもらい、状況により病院受診するなど早期に対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人のカルテおよび、薬の情報のファイル(全員分を綴っている)で確認し、主作用・副作用、用法や用量について理解している。服薬の介助も必要に応じて行っている。特に薬に変更があった際には症状や状態の変化に注意している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便の有無についてチェックしている。散歩や体操、腹部マッサージなどを行っている。繊維質の多い野菜や海藻をメニューに取り入れ、また水分不足にならないように補給している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔内の清潔を支援している。ご本人の力に応じて、できる部分はしてもらっている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量とも必要量が摂取できるように支援し、必要な方には介助を行っている。また栄養状態の悪い方には栄養補助食品を使用することもある。併設老健のメニューを参考にし、バランスのよい食事を提供している。		食事量が多すぎることもあるため、必要過多にならないように注意していく。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRS A、ノロウイルス等)。	併設老健と合同で感染対策委員会を設置し、各種マニュアルを整備し、毎月委員会を開催している。また手洗いや、インフルエンザ・ノロウイルス対策の研修を毎年行っている。冬期間は特に感染対策を厳重にし、ホーム内に持ち込まないよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は新鮮な物を毎日購入している。 布巾は毎食後に消毒し、まな板等、他の調理器具は一日1回消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏場は外玄関に花を飾り、内玄関には「ようこそおおむらさきへ」と案内板を置いている。 建物の外観はあたたかみのある雰囲気を出し、「おおむらさきの家」と表示している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	不快な音や光がないよう、居間のカーテンで光量を調整し、居心地よくなるように配慮している。 季節毎の花を飾ったり、季節に合う装飾を施したりしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間の中で、気の合った方向士で過ごせるようにテーブル配置を変更したり、一人でテレビを観ていた方は、お気に入りの場所に一人掛けのソファを設置している。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたテーブル・椅子・タンスや、仏壇のある方は仏壇を持参し、馴染みの物に囲まれた安心できる環境になるよう工夫している。 またアルバムなど、思い出の物も置いている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	食後や匂いの気になる時、及び定期的に換気を行っている。 エアコンや暖房の温度もこまめに調整している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	階段や廊下、居室の壁には手すりを設置している。階段を昇降できない方のためにホームエレベーターがある。トイレは車椅子の方が入るのに十分な広さがあり、浴室はシャワーチェアや浴槽台を用意し、安全かつ自立できるように工夫している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	見やすい時計や日めくりカレンダーを使用している。居室入り口には写真付きの表札があり、居室を認識しやすい工夫をしている。また、居室替えは極力行わないようにしている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の敷地内に畑を作り、生きがいを持てるようにしている。また、テラスには椅子とテーブルを置き、暖かい日には昼食を楽しんだりしている。花のプランターも多数置いて、ご利用者が園芸活動できるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・生きがいや役割を持っていただくために、一緒に調理や掃除などをしてもらうなど、家事への参加が多い。
- ・敷地内に畑があり、一緒に野菜作りを行い、春から晩秋まで季節の新鮮な野菜が食卓に上っている。
- ・日常的な散歩や、外出の機会を増やしていく取り組みをしている。
- ・ご家族との関係を大切にしている。行事などへのご家族の参加率が非常に高く、ご利用者、ご家族、職員と一緒に楽しむ時間が多い。
- ・職員のご利用者に対する対応が穏やかである。